

いろんな気持ちを伝えよう

～受動態と同じ形の表現～



学習のポイント

- 第3の形を使って「がっかりする」
- 第3の形を使って「興味がある」

英語監修・執筆 **鳥飼慎一郎**

■コミュニケーション

英語では、気持ちを表すときに「be (is, are, am, was, were)」と「動きを表す語の第3の形」を使って表します。

例えば、イルミネーションを一緒に見に行こうと日梨を誘ったフィリップですが、日梨に断られてしまい「がっかり」しています。このような気持ちは、まさに「be + 動きを表す語の第3の形」の得意とする表現です。英語では、

I am disappointed. (がっかりした)

と表現します。ここで使われている**disappointed**という語の元の形は、**disappoint**「がっかりさせる」という意味の動きを表す語です。その語に**ed**が付いて以前のことを表す形、そして第3の形になりました。考え方としては、日梨がフィリップの誘いを断ったので、「日梨はフィリップをがっかりさせた」という意味の以下の文をまず考えます。

Hina disappointed Philip. (日梨がフィリップをがっかりさせた)

このことをフィリップの側から考えると、「フィリップは日梨にがっかりさせられた」となります。

Philip was disappointed by Hina.

その結果、「フィリップは今がっかりしている状態にある」という意味で、

Philip is disappointed.

という表現ができあがります。英語ではこのように、「相手が自分に対して～した」すなわち自分からすると「相手から～された」、その結果「今自分は～させられた気持ちである」というような表現のしかたをします。日本語からするとなんとも理屈っぽく聞こえますが、見方を変えれば、英語では自分の心理状態を表すときにも原因と結果、因果関係を当てはめて表現しているのだとも考えられます。「がっかりする」1つを取っても日本語と英語ではこうも物の見方、考え方、表現のしかたが違うということです。

同じように**be surprised**「びっくりしている、驚いている」もなぜこのような形になっているのかがよく理解できます。

この表現も、最初に誰かが、例えば亮が、私を驚かせ、

Ryo surprised me. (亮が私を驚かせた)

その結果、私が驚かされたのであり、

I was surprised by Ryo. (私は亮に驚かされた)

今驚いた状態にある、となります。

I am surprised. (私は驚いている)

以下に似たような表現を挙げておきましょう。どれも同じように **be + ~ ed** (第3の形) で、人の気持ちを表現しています。

Children are excited about Philip's performance.

(子どもたちはフィリップの演技に大はしゃぎです)

We were all amazed by Hina's dance. (私たちは皆日梨のダンスに驚嘆した)

Many people were moved by the story. (多くの人々はその話に感動した)

The captain is worried about the weather. (船長は天気を心配している)

Are you interested in Japanese local festivals?

(日本の地域のお祭りに関心がありますか?)

単に **be + ~ ed** (第3の形) だけで言い切ってしまうてもかまいません。

I am bored. (ああ、退屈だー)

My students are tired. (学生たちは疲れている)

The teacher was very upset. (先生はとても慌てた)

■単語や表現

「驚かせる」という意味の **surprise** に **ed** を付けて、**surprised** という第3の形を作り、**be + surprised** という形で使うと、「驚かされている、驚いている」という意味になることは学習しました。

この **surprise** に **ing** を付けて **surprising** とすると、「(物事などが) 驚くべきことだ、すごい」などという意味になります。

This computer is surprising. It can calculate very fast.

(このコンピュータはすごい、とても速く計算できる)

The story was surprising and people were shocked.

(その話は驚くべきもので、人々は衝撃を受けた)

「興味をいだかせる」という意味の **interest** も同じように使えます。**Interest** に **ed** を付けて

第3の形にし、それと **be** を一緒に使うと、

We are interested in the Tokyo Olympic Games. (東京オリンピックに関心があります)
Are you interested in this job? (この仕事に興味がありますか?)

などと、人について述べることができます。この **interest** に **ing** を付けて **interesting** とすると、「(物事が) おもしろい、興味深い」という意味になります。

This English program is interesting. (この英語の番組はおもしろい)
His lecture is not interesting. (彼の講義はおもしろくない)

気持ちや感情を表す **be + ~ ed** で使った語の多くは、**ed** の代わりに **ing** を付けて、「物事が～である」という意味で使うことができます。

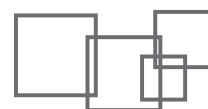
Ryo's performance was amazing. (亮の演技には驚嘆した)
The new TV drama is boring. (新しいテレビドラマはつまらない)
This cleaning job is tiring. I want to quit. (この掃除の仕事は疲れる、やめたい)
Her devoted life to the poor people was moving.
 (彼女の貧しい人々への献身的な生涯は感動的であった)
The test result was disappointing. (テストの結果は残念でした)
That can be very upsetting. (それはひどいな)

■英語のきまり

次の文はどこが違うのでしょうか。

Children were surprised by Santa Claus. (子どもたちはサンタに驚いた)
Children were surprised at the pretty pictures. (子どもたちはきれいな絵に驚いた)

最初の文は第3の形の後に **by** が使われており、2番目の文は **at** が使われている点が違うのですが、この違いは何を表しているのでしょうか。一般的には、**by** は「行為者」を表します。例えば、「ゴッホが描いた絵」は、**a picture by Van Gogh** といいます。ですから、最初の文をより正確に訳せば「子どもたちはサンタによって驚かされた」、つまりサンタが子どもたちを驚かしたのです。一方、2番目の文で使われている **at** は、元々は場所を表す語です。より原文に沿って訳せば「子どもたちはそのきれいな絵に遭遇して驚いた」となります。絵が子どもたちを驚かしたのではなく、子どもたちが絵を見て驚いたのです。



似たような例に、**amaze**「驚かせる」や **move**「感動させる」があります。これも第3の形を使って、

People were amazed by the gymnast. (人々はその体操選手に驚いた)

People were amazed at the sunrise. (人々はその日の出の美しさに驚いた)

I was moved by his kindness. (彼の親切に感動した)

I was moved at the last scene of the movie. (その映画のラストシーンに感動した)

と、使い分けて微妙な違いを表現することができます。この場合も、**by**を使いますと「その体操選手によって」あるいは「彼の親切によって」という意味になり、**at**を使うと「その美しい日の出を見て」あるいは「映画のラストシーンを見て」というニュアンスの違いが感じられます。

ただ、最近の英語はこのような微妙な使い分けをせずに、すべて **by** を使って表す傾向があります。ですから、上の例も **at** ではなく **by** を使ってもほぼ同じような意味になります。その分、私たちにとっては英語が簡単になったとも言えます。

